

# Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 企業物価指数(2008年10月)  
 ~前月比で過去最大の下落率~

発表日2008年11月13日(木)

第一生命経済研究所 経済調査部  
 担当 エコノミスト 中本 泰輔  
 TEL: 03-5221-4549  
 (単位: %)

	国内企業物価				国内企業物価 (連鎖指数)		輸出物価		輸入物価		
	前期比	前年比	最終財 前期比	最終財 前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	
07	1月	▲ 0.1	1.5	▲ 0.5	▲ 1.0	▲ 0.1	1.2	1.3	4.9	2.7	10.6
	2月	0.0	1.2	▲ 0.1	▲ 1.2	▲ 0.1	0.9	▲ 0.1	3.3	▲ 2.0	4.3
	3月	0.2	1.4	0.0	▲ 1.1	0.2	1.1	▲ 1.3	2.5	▲ 0.3	4.4
	4月	0.8	1.9	0.1	▲ 0.7	0.7	1.5	1.4	3.4	3.3	6.7
	5月	0.3	1.7	0.1	▲ 0.5	0.2	1.4	1.4	6.9	3.5	11.1
	6月	0.1	1.8	▲ 0.1	▲ 0.5	0.1	1.5	1.2	6.5	1.6	10.3
	7月	0.7	1.9	0.2	▲ 0.4	0.6	1.5	▲ 0.3	4.7	▲ 0.2	8.4
	8月	0.0	1.6	0.0	▲ 0.7	0.1	1.3	▲ 3.1	0.8	▲ 2.2	4.0
	9月	▲ 0.1	1.3	▲ 0.1	▲ 0.8	▲ 0.1	1.0	▲ 1.0	▲ 1.0	▲ 1.0	1.9
	10月	0.3	2.0	0.2	▲ 0.3	0.2	1.8	0.7	▲ 0.6	3.3	6.9
	11月	0.2	2.3	0.2	0.0	0.3	2.2	▲ 2.6	▲ 2.3	▲ 0.7	8.3
	12月	0.4	2.7	0.4	0.4	0.4	2.4	0.4	▲ 2.1	4.1	12.5
08	1月	0.3	3.1	▲ 0.2	0.7	0.2	2.7	▲ 2.4	▲ 5.8	▲ 2.2	7.1
	2月	0.5	3.6	0.4	1.2	0.5	3.3	0.5	▲ 5.2	1.6	11.0
	3月	0.5	3.9	0.2	1.4	0.4	3.5	▲ 3.0	▲ 6.8	▲ 2.7	8.3
	4月	0.8	4.0	▲ 0.8	0.5	0.8	3.6	2.5	▲ 5.9	6.1	11.3
	5月	1.2	4.9	1.1	1.5	1.0	4.5	1.7	▲ 5.6	4.1	12.0
	6月	0.9	5.8	0.5	2.1	0.7	5.1	2.8	▲ 4.1	7.3	18.2
	7月	2.1	7.3	0.6	2.5	1.8	6.4	1.2	▲ 2.8	2.7	21.7
	8月	0.1	7.4	0.2	2.7	0.2	6.5	0.2	0.6	2.3	27.2
	9月	▲ 0.6	6.8	▲ 0.2	2.6	▲ 0.5	6.2	▲ 2.9	▲ 1.3	▲ 6.7	19.9
	10月	▲ 1.6	4.8	▲ 0.7	1.7	▲ 1.3	4.6	▲ 6.8	▲ 8.7	▲ 11.1	3.3

(出所) 日本銀行

## ○10月の国内企業物価は前月比▲1.6%

10月の国内企業物価は前月比▲1.6%、前年比+4.8%とコンセンサス(同+5.5%、レンジ: 同+4.4%~6.2%)を大きく下回り、前月比で見ると過去最大の下落率となった。11月についても、現時点で入手可能なデータをもとに予測すると前月比で1%を超えるマイナスとなる可能性が高く、国内企業物価は低下基調が鮮明となっている。

前月比の内訳をみると石油・石炭製品(前月比▲12.4%、寄与度▲1.05%ポイント)、非鉄金属(前月比▲10.5%、寄与度▲0.31%ポイント)、スクラップ類(前月比▲29.0%、寄与度▲0.24%ポイント)、化学製品(前月比▲1.9%、寄与度▲0.17%ポイント)、電力・都市ガス・水道(前月比▲2.8%、寄与度▲0.14%ポイント)などがマイナスに寄与し、輸送用機器(前月比+1.6%、寄与度+0.17%ポイント)などがプラスに寄与した。

個別にみると、世界経済の急減速や金融市場の混乱を背景に原油や非鉄金属の先物価格は急激に下落しており、石油・石炭製品と非鉄金属は前月比で大幅なマイナスとなった。また、化学製品は原油価格の下落から石油化学製品の価格が下落しマイナスとなった。さらに、スクラップ類は建材需要の低迷やアジア向け輸出の不振等を背景に鉄スクラップ価格が大きく下落したことからマイナスとなった。一方で、輸送用機器は過去の鋼材価格高騰を自動車部品を中心として価格転嫁する動きが見られたことから前月比プラスとなった。

## ○消費財の国内品は前年比+2.0%と伸びが大きく鈍化

国内品を需要段階別にみると、素原材料は前年比▲4.5%(9月: 同+3.6%)とマイナスに転じ、中間財

は同+7.3%（9月：同+9.9%）、最終財は同+1.7%（9月：同+2.6%）と伸びが大きく鈍化した。消費者物価の財価格と関連の深い消費財も国内品で同+2.0%と9月（同+3.5%）から伸びが大きく鈍化した。このことから、9月は同+2.3%となった全国消費者物価（生鮮食品除く総合）であるが、10月は同+1.9%程度に伸びが鈍化する可能性が高い。

### ○来年春にはマイナス転化する見込み

先行きについて、原材料価格の下落を背景に石油・石炭製品、非鉄金属、化学製品などで前月比マイナスが見込まれる。また、依然前年比で高い伸びを続けている鉄鋼についても、伸び率が鈍化してくると考えられる。原材料である鉄スクラップ価格がピーク時の6分の1以下になっていることや、鉄鉱石の需給が中国の減産に伴い軟化していることから、先行き、鉄鉱石の値下げ圧力が強まる可能性が高いことなどがその理由である。国内企業物価は11月には前年比で3%程度、12月には2%割れと、今後急速に鈍化することが予想される。09年春にはマイナス転化の可能性が高いだろう。



